

トップラグビー選手がラグビー経験を通して培うポータブルスキルの分析 Analysis of top rugby players' portable skills cultivated by experiences of rugby

岩本 隆¹⁾ 長谷川 卓己²⁾ 林 幸弘²⁾ 佐藤 洋平³⁾ 山谷 拓志³⁾ 久保 晃一⁴⁾
Takashi Iwamoto Takumi Hasegawa Yukihiro Hayashi Yohei Sato Takashi Yamaya Koichi Kubo

1. はじめに

2000年に日本政府によって策定された「スポーツ振興基本計画」でアスリートのキャリア形成が初めて政策課題に位置付けられた[1]。2015年3月6日に公表された「教育再生実行会議」の第六次提言では、国がアスリートのキャリア形成支援を一元的に実施できる体制構築への取り組みが提示され、スポーツ界だけでなく教育界の両面から国の取り組むべき政策課題となった[2]。

スポーツ庁は、2015年から3カ年で「スポーツキャリアサポート推進戦略」を検討し、2017年2月に、スポーツ庁委託事業の一環として「スポーツキャリアサポートコンソーシアム」が創設され、アスリートが引退後のセカンドキャリアでも活躍できるようサポートがなされている。

これらの継続的な活動により、アスリートのセカンドキャリアの成功例は少しずつ増加しているものの、裾野の広がりや弱く、どのアスリートにも適用できるキャリア形成のあり方の体系化が求められる。

さまざまなスポーツに先じて、ジャパンラグビーリーグワンは、ラグビーを通じた人材育成を強化しており、スキル体系を、第1層の「アプリケーションスキル」、第2層の「ポータブルスキル」、第3層の「バリュー」の3つの層で捉え、セカンドキャリアでも活躍できる人材育成を実施している。アプリケーションスキルは、現場で価値を創る力であり、ラグビーにおいては、「つなぐ(パス)」、「一丸となる(スクラム)」、「防ぐ(タックル)」、「成果を出す(トライ)」、「局面を変える(キック)」、「勇気をつくる(ジャッカル)」、「前進する(ラン)」などである。第2層のポータブルスキルは「人を活かす」、「成長し続ける」、「流れを変える」、「多様性を生かす」、「人を鼓舞する」、「試練を越える」、「組織文化を創る」などのスキルであり、セカンドキャリアを含めてどの組織で働いても生かすことができるスキルである。第3層のバリューは、ラグビーの5つの憲章である「品位」、「情熱」、「結束」、「規律」、「尊重」としている[3]。

2. 研究方法

アスリートのキャリア形成の体系化の第一歩として、成功事例が多いヤマハ発動機の元トップラグビー選手を対象に、ラグビー経験を通して培ったポータブルスキルの分析を行った。ポータブルスキルとは、業界や職種の枠を超えて通用する基本的スキルのことであり、持ち運びができるスキルであることからポータブルスキルと表現される。

ポータブルスキルの分析には、実績が豊富な株式会社リンクアンドモチベーションの「BRIDGE」というサーベイツールを用いた。「BRIDGE」は経済産業省が調査を行った「社会人基礎力」をベースに開発され、2006年1月に発売された。2022年末時点で累計約47万人が「BRIDGE」を受検している。

「BRIDGE」では、受検者は合計100の設問に対し、リッカート尺度で回答する。回答結果は、BRIDGE独自のアルゴリズムにより、以下に記す24のポータブルスキルにおいて1~10点の間でスコア化される。

【対課題力：右脳的】

- 試行力：自分でいろいろと試行錯誤しながら物事を進めることができる力
- 発想力：既存概念にとらわれることなく物事を考えることができる力
- 機動力：状況に応じて機転をきかせた判断・行動ができる力
- 変革力：常に新しいものを取り入れたり、変えていったりすることができる力

【対課題力：左脳的】

- 計画力：情報を整理して物事を段取りよく進めることができる力
- 分析力：本質を捉えようと深く掘り下げて考えることができる力
- 確動力：計画したことに対して、着実に実行することができる力
- 推進力：目的意識をもって、ゴールへと推し進めることができる力

【対自分力：外的】

- 曖昧力：不確実で不安定な状態をそのまま受け入れることができる力
- 決断力：一度決めたら最後まで貫く潔さで行動できる力
- 冒険力：新しいことに対して危険を恐れずに挑戦することができる力
- 瞬発力：臨機応変に、かつ、集中的にパワーを発揮することができる力

【対自分力：内的】

- 持続力：長期間継続してひとつのことに取り組むことができる力

1)慶應義塾大学 Keio University

2)株式会社リンクアンドモチベーション Link and Motivation Inc.

3)静岡ブルーレヴズ株式会社 SHIZUOKA BlueRevs Co., Ltd.

4)ヤマハ発動機株式会社 Yamaha Motor Co., Ltd.

- 忍耐力：苦しみや辛い状況を受け入れて耐えることができる力
- 慎重力：注意深く丁寧に物事を進めることができる力
- 規律力：秩序やルールに従って物事を進めることができる力

【対人力：父性的】

- 主張力：周囲に対しオープンに自分の考えを発信することができる力
- 否定力：相手に対して、指摘や否定をすることができる力
- 説得力：相手に対して、自分の考えを理解、納得させることができる力
- 統率力：周囲をまとめていくことができる力

【対人力：母性的】

- 傾聴力：相手の意見や要望に真剣に耳を傾けることができる力
- 受容力：相手に共感し、受け入れることができる力
- 支援力：相手に気を配り、援助やサポートをすることができる力
- 協調力：周囲との調和を図りながら物事を進めることができる力

表1に過去 BRIDGE を受検した約47万人のポータブルスキルの過去平均を示す。

本研究では合計82名の元トップラグビー選手が BRIDGE を受検した。受検の際には、以下の12の設問にも回答してもらった。

1. ラグビーの開始時期
2. 怪我による長期離脱の経験
3. 担っていたポジション
4. 現役時代の戦績
5. チーム内の役割
6. 出身大学
7. 経験職種
8. 異動経験
9. 海外駐在経験
10. 引退後何年経過しているか
11. 仕事に活かせたと感じるラグビー経験
12. 職場から受けた特にありがたかった支援

これら12の設問の回答結果と BRIDGE によるポータブルスキルスコアの結果との関係性について分析を行った。分析の結果、本論文では、有意な関係性が見出された「1. ラグビーの開始時期」から「5. チーム内の役割」までの分析結果を報告する。

3. 結果

表2に82名の元トップラグビー選手のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。元トップラグビー選手は過去平均に比べて、全体的に、機動力、決断力、説得力、統率力が高いことがわかった。機動力は課題に対して

挑戦する力でもあり、決断力は自分に対して判断する力でもあり、説得力と統率力は他人を牽引する力でもある。

表3にポジション別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。ポジション別のスコアと過去平均とを比べると、対課題力において、バックス（以下、BK）を担っていた選手はフォワード（以下、FW）を担っていた選手と比べ、変革力、発想力が高いことがわかった。一方で、対自分力においては、FWを担っていた選手は、BKを担っていた選手に比べ、瞬発力、忍耐力、規律力、慎重力が高いことがわかった。対人力においては、BKを担っていた選手は、父性的スキル（主張力・否定力・説得力・統率力）が高い傾向になり、一方、母性的なスキル（傾聴力・受容力・支援力・協調力）は、FWを担っていた選手が高い傾向であることがわかった。

表4に戦績別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。大学において全国大会優勝経験がある選手と2002年社会人ラグビーAリーグ戦優勝経験がある選手は、相対的にスコアが高い傾向にあった。

表5にチーム内での役割別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。主将経験者は、副将経験者やどちらの経験もない選手に比べ、対課題力・対自分力・対人力が総合的に高い傾向にあった。具体的には、対課題力においては、試行力、機動力、推進力、確動力が高く、対自分力においては、決断力、曖昧力、冒険力といった外的スキルが高い傾向にあった。また、対人力においては、ほぼ全ての項目において高い傾向にあり、特に説得力、統率力が高い結果となった。

表6にラグビーの開始時期別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。結果として、ラグビーの開始時期が早い（小学校以前）選手は、ポータブルスキルスコアが高い傾向にあった。

表7に怪我による長期離脱経験の有無別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較を示す。結果として、怪我による長期離脱経験がある選手の方が傾聴力、受容力のスコアが高いことがわかった。

4. 考察

表2における比較から元トップラグビー選手は過去平均に比べて、全体的に、機動力、決断力、説得力、統率力が高いことがわかった。つまり、ラグビー経験はポータブルスキルの獲得、特に機動力、決断力、説得力、統率力に寄与するものと見受けられる。

また、表3におけるポジション別のポータブルスキルスコアと過去平均との比較においては、BKは対課題力において、変革力、発想力が高い結果となったこと、FWは対自分力において、瞬発力、忍耐力、規律力、慎重力が高い結果となったことは、ポジションの特性（BK：自由な発想、戦略的大胆さが求められる、FW：スクラムなど仲間のために身を粉にして戦う）が個人特性にも影響していると見受けられる。

表1 約47万人のポータブルスキルスコアの過去平均

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力							ポータブルスキル：対人力						
		右脳の					左脳の					外的			内的				父性的			母性的			
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	6.0

表2 元トップラグビー選手のポータブルスキルスコアの過去平均との比較

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力							ポータブルスキル：対人力						
		右脳の					左脳の					外的			内的				父性的			母性的			
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	6.0
82名平均	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.4	5.6	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	5.0

表3 ポジション別のポータブルスキルスコアの過去平均との比較

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力							ポータブルスキル：対人力						
		右脳の					左脳の					外的			内的				父性的			母性的			
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	6.0
82名平均	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.4	5.6	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	5.0
FW合計	23	5.2	4.9	6.4	5.7	5.7	5.8	3.7	5.6	6.2	5.6	5.8	5.6	5.3	5.3	4.4	5.2	5.1	4.7	5.9	6.7	5.8	6.0	6.1	5.0
フロントロー	20	4.5	4.2	6.5	5.0	6.4	5.8	3.7	6.4	6.5	5.4	6.1	5.2	5.8	5.5	4.7	5.5	4.7	4.5	5.4	6.6	6.2	6.2	6.3	5.2
セカンドロー	6	5.9	6.3	7.9	7.1	4.9	6.7	2.3	3.8	6.9	5.6	6.5	6.8	5.5	5.6	2.9	4.5	5.8	5.0	7.5	7.6	5.5	5.8	4.8	4.3
バックロー	21	5.7	5.2	5.8	6.0	5.4	5.6	4.1	5.4	5.7	5.6	5.4	5.6	4.6	5.1	4.6	5.0	5.3	4.8	5.9	6.5	5.5	5.9	6.2	5.0
BK合計	35	4.6	5.7	5.3	6.2	5.7	5.3	4.5	4.8	5.6	6.0	4.6	5.8	4.9	4.5	4.7	4.4	5.4	4.8	6.1	6.4	5.0	5.8	5.5	4.9
ハーフバック	12	4.8	6.1	6.3	6.5	5.9	6.1	4.2	4.6	6.7	6.7	5.8	6.3	5.0	4.5	4.0	4.3	6.6	5.9	6.8	7.7	5.2	5.6	5.5	5.0
スリークォーターバック	20	4.6	5.3	4.7	5.9	5.4	4.8	4.4	4.9	4.8	5.7	3.9	5.5	4.8	4.5	5.2	4.5	4.7	3.8	5.9	5.9	4.8	6.2	5.4	4.9
フルバック	3	4.1	6.4	5.0	6.8	6.6	5.2	6.0	4.5	5.7	5.4	4.7	5.6	5.4	4.5	4.4	4.3	5.8	7.3	4.8	4.5	5.2	3.5	6.1	4.9

表4 戦績別のポータブルスキルスコアの過去平均との比較

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力							ポータブルスキル：対人力						
		右脳の					左脳の					外的			内的				父性的			母性的			
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	6.0
全体	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.4	5.6	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	5.4
高校：全国大会出場経験あり	13	5.3	5.4	6.4	6.3	5.9	6.5	4.1	5.9	6.1	6.4	5.1	6.5	5.3	6.0	5.0	4.6	5.2	4.7	6.5	7.3	5.5	6.2	5.3	
大学：全国大会出場経験あり	8	5.1	4.5	5.2	5.4	5.3	5.6	4.1	4.5	4.9	6.6	5.9	4.5	5.0	4.3	3.9	5.2	4.7	5.1	5.9	6.2	5.3	5.3		
高校・大学ともに全国大会出場経験あり	9	3.9	4.2	6.0	5.1	6.2	6.1	3.5	5.9	6.2	5.0	5.7	5.0	6.0	5.8	3.8	5.1	5.3	3.5	5.0	7.1	4.4	4.4		
高校：花園優勝経験あり	5	5.3	2.5	5.9	3.6	4.4	6.5	2.9	7.5	6.3	6.2	5.2	5.9	4.9	5.2	6.1	4.5	3.6	4.3	5.0	5.3	5.3			
大学：全国大会優勝経験あり	4	5.4	6.2	7.7	7.2	6.5	6.1	4.0	4.6	7.4	6.8	6.9	6.3	4.7	4.8	4.8	5.9	6.2	5.7	7.2	7.2	7.2	5.2		
2002年Aリーグ優勝経験あり	14	6.0	6.7	6.3	7.2	6.3	5.1	4.6	4.2	6.4	5.5	5.6	6.4	5.0	5.2	4.4	4.7	6.1	5.6	6.4	6.9	6.1	6.1		
2014年第52回日本選手権優勝経験あり	5	3.5	5.5	4.7	5.4	7.0	5.3	5.8	5.9	5.7	6.0	5.6	4.0	5.6	6.5	5.4	6.4	6.2	3.0	3.2	5.2	5.2	7.6		
該当なし	24	4.7	5.3	5.7	5.8	5.1	5.1	3.7	5.2	5.4	5.3	5.0	5.4	4.6	4.1	4.2	4.4	5.5	4.9	6.0	6.3	5.0			

表5 役割別のポータブルスキルスコアの過去平均との比較

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力							ポータブルスキル：対人力						
		右脳の					左脳の					外的			内的				父性的			母性的			
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	6.0
82名平均	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.4	5.6	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	5.0
主将経験あり	23	5.7	5.4	6.5	6.2	6.1	6.5	4.7	4.9	6.9	6.5	5.7	6.6	5.5	5.1	4.7	5.0	5.8	5.7	6.7	7.7	6.0	6.1	6.3	4.8
副将経験あり	26	4.8	5.3	5.9	5.7	5.8	5.3	3.9	5.3	5.7	5.7	5.0	5.5	5.0	4.8	4.5	5.0	5.0	4.9	6.0	6.5	5.4	5.3	5.4	4.6
主将・副将経験なし	33	4.5	5.0	5.5	5.9	5.3	5.2	3.7	5.6	5.4	5.2	5.3	5.2	4.9	5.0	4.5	4.7	5.0	4.0	5.5	5.8	5.1	6.2	5.8	5.3

表 6 ラグビー開始時期別のポータブルスキルスコア

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力										ポータブルスキル：対人力			
		右脳的					左脳的					外的					内的					父性的		母性的	
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	
全体	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.9	5.7	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	
1.小学校より前～	6	5.8	2.5	6.2	3.8	4.7	8.1	4.1	7.7	6.1	7.1	5.9	5.4	4.9	5.2	6.0	5.6	3.3	4.5	4.8	5.5	6.3	5.4	6.1	
2.小学校低学年1-3年生～	13	5.0	4.7	5.0	5.5	6.3	5.7	4.5	5.0	5.8	5.3	4.9	5.4	5.2	4.8	5.0	4.8	5.0	4.9	5.2	5.8	5.1	6.2	5.7	
3.小学校高学年4-6年生～	4	4.2	6.8	6.6	6.9	7.0	4.2	4.4	4.7	6.7	5.2	5.3	6.7	5.0	6.0	4.2	5.2	6.0	4.4	6.4	7.7	6.1	6.1	6.8	
4.中学校～	16	4.5	5.0	5.9	5.9	5.6	5.4	3.9	4.5	5.6	5.5	4.9	5.8	5.3	5.1	4.1	4.5	5.6	4.7	6.5	6.5	5.1	6.3	6.3	
5.高校～	37	5.1	5.7	6.2	6.3	5.7	5.4	3.9	5.3	6.0	6.1	5.7	5.7	5.1	4.8	4.4	4.9	5.3	4.9	6.2	6.9	5.7	5.9	5.7	
6.大学～	6	4.7	5.6	5.7	6.3	5.1	6.0	3.9	5.9	5.5	4.1	4.1	5.6	4.7	5.4	4.7	4.4	5.7	4.3	5.6	6.3	3.9	4.9	4.9	

表 7 怪我による長期離脱経験の有無別のポータブルスキルスコア

属性	人数	ポータブルスキル：対課題力										ポータブルスキル：対自分力										ポータブルスキル：対人力			
		右脳的					左脳的					外的					内的					父性的		母性的	
		試行力	変革力	機動力	発想力	計画力	推進力	確動力	分析力	決断力	曖昧力	開発力	冒険力	忍耐力	規律力	持続力	慎重力	主張力	否定力	説得力	統率力	傾聴力	受容力	支援力	協調力
過去平均	-	5.1	5.6	5.4	5.9	5.8	5.4	5.3	5.3	5.4	5.6	5.3	5.3	5.8	5.6	5.4	5.5	5.1	4.8	5.5	5.8	6.1	6.3	6.6	
82名平均	82	4.9	5.2	5.9	5.9	5.7	5.6	4.0	5.3	5.9	5.7	5.3	5.7	5.1	5.0	4.6	4.8	5.2	4.8	6.0	6.6	5.4	5.9	5.8	
ある	26	5.6	5.2	6.7	6.1	5.5	6.0	3.6	5.3	6.5	6.0	6.2	6.3	5.3	5.3	4.1	4.6	5.6	4.9	6.0	7.2	6.0	6.5	6.3	
ない	56	4.6	5.2	5.6	5.8	5.8	5.4	4.2	5.2	5.6	5.6	4.9	5.4	5.1	4.8	4.7	5.0	5.1	4.7	5.9	6.2	5.2	5.7	5.6	

また、表 4 において、大学・社会人時代の戦績が優秀であった選手は総合的にポータブルスキルスコア高いという結果の考察については、BRIDGE が本人の主観的観点で回答するという特性も踏まえる必要がある。つまり、「自分としては、〇〇力が高いと認識している」ということは、それに見合うだけの過去体験がセットで必要となる。大学・社会人時代に優秀な戦績は彼らの成功体験となっており、結果としてポータブルスキルも高いスコアとなった可能性もある。

表 5 において、主将経験のある選手のポータブルスキルスコアが高い結果となったことは、主将経験の中で、チーム・組織の中の課題解決を担ったこと、周囲との調整や説得という経験を経て、ポータブルスキルを獲得していったと考えられる。また、対課題力・対自分力・対人力の中で、対人力のスコアが最も高かったことも、対人コミュニケーション力が必要とされる主将という役割に特徴的な結果であったと言える。

表 6 において、ラグビーの開始時期が早い（小学校以前）選手はポータブルスキルスコアが高いという結果については、ラグビー期間が長かったことによって、ポータブルスキルを獲得する機会が多かったことに起因すると考えられる。

また、表 7 において、怪我による長期離脱経験の有無がポータブルスキルスコアの高低に寄与している結果については、傾聴力、受容力のスコアが高かったことから、長期離脱中に周囲からのサポートを受けていた選手が復帰したり、引退後社会人経験をしたりしていく中で、自分が支援する立場に置かれた際に、該当スキルを発揮する機会が多くなるであろう、と予想される。傾聴力や受容力はその際に重要視されるスキルであり、そうしたスキルを獲得する機会が多かったことにも寄与すると考えられる。

5. おわりに

本研究の結果により、元トップラグビー選手は過去平均と比べポータブルスキルスコアが相対的に高く、また、どのようなラグビー経験によってどのようなポータブルスキルが磨かれるかが明らかになった。

ネクストステップでは、ラグビー経験が仕事に活かした具体的な経験やラグビー選手時代に受けた職場からの支援内容について考察を広げ、ヒアリング調査を基にアスリートのキャリア形成の体系化に資する研究を展開していく予定である。

参考文献

- [1] 文部科学省, “スポーツ振興基本計画”, 文部科学省ウェブサイト (2000).
- [2] 教育再生実行会議, “「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について”, 首相官邸ウェブサイト (2015).
- [3] 東海林一, “本書の目的”, ラグビー流「人材成長」, p.1-3, 日経 BP (2024).